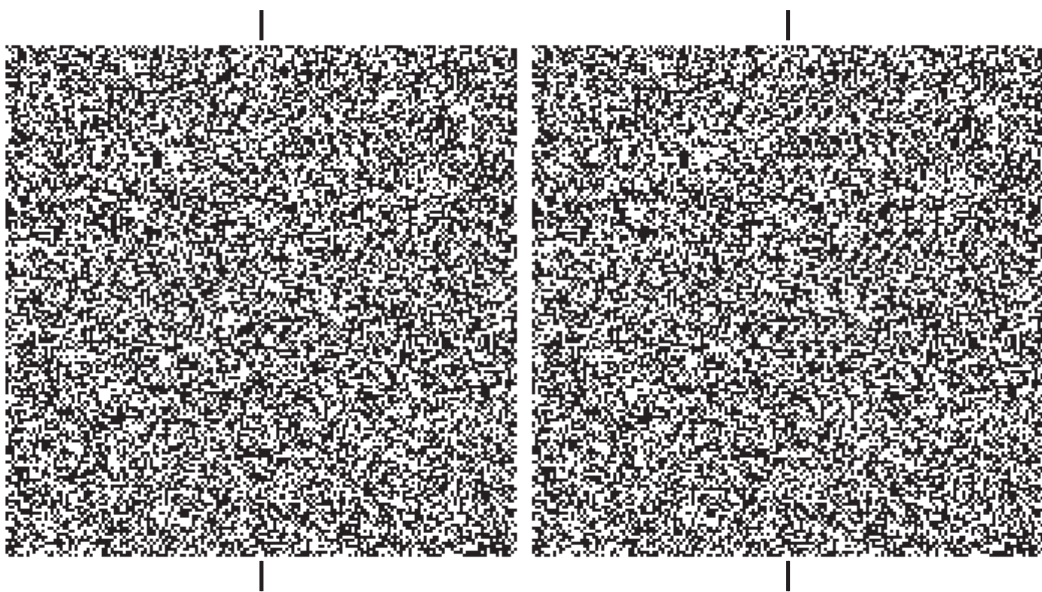


# 人間科学 研究

補遺号

2021年3月



# 人間科学研究投稿規程

- 論文等の著者は本学術院教員（助手・非常勤講師等を含む）、人間総合研究センター招聘研究員、大学院人間科学研究科学生（科目等履習生を含む）、および人間科学学術院学術誌編集委員会（以下「編集委員会」という。）が認めたものとする。但し、本学術院教員（助手・非常勤講師等を含む）との共同研究者は著者に加えることができる。
- 大学院人間科学研究科学生および同科目等履修生が、単独で投稿する際は、本学術院教員の推薦書を併せて提出する。
- 論文等の種類は以下のものとする。
  - ① 「原著論文」：理論的・実証的な研究成果で、新規性、独創性、有用性があるもの。
  - ② 「研究ノート」：緊急性の高い研究報告、あるいは萌芽的発想に立つ研究。
  - ③ 「資料」：研究の基礎的材料や情報を提供する資料的価値のあるもの。
  - ④ 「総説」：最近の学術的知見やその成果を総合的に論述したもの。編集委員会が執筆依頼する場合もある。
  - ⑤ 「書評」：編集委員会が書籍ならびに評者を選定・依頼する。
  - ⑥ 「研究室だより」：各研究室の研究・教育内容を紹介し、最近の研究・教育業績等を報告する。毎号各学科の教員に編集委員会が依頼する。
  - ⑦ 「特別寄稿」：編集委員会で執筆者を選定・依頼する。
- 原著論文、研究ノート、資料、総説については、原稿提出期限は、編集委員会が定めた日とし、投稿された論文を集めて査読を行い、編集委員会の議を経て掲載する。その他の書評、研究室だより、特別寄稿等は査読を行わず、編集委員会の議を経て掲載する。補遺号には定年退職教員プロフィール、修士論文要旨、博士論文要旨および人間総合研究センター主催のシンポジウムの要旨等を掲載する。
- 他誌に発表された論文等は掲載できない。
- 原著論文、研究ノート、資料は、原則として、早稲田大学の「生物実験安全管理規程」「人を対象とする研究に関する倫理規程」「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する規程」「ヒトES細胞の使用に関する規程」の審議に該当する研究については各々の指針に沿ったものとする。
- 使用言語は日本語または英語とする。
- 原稿は、原著論文、研究ノート、資料、総説、書評等の別を明記し、オリジナル1部、コピー2部、および電子ファイルを提出する。
- 原著論文と特別寄稿の刷り上がりは12ページ、邦文は24,000字以内とし、英文は12,000語以内とする（要旨・図表・写真・文献含む）。研究ノート、資料、総説は6ページ、邦文は12,000字以内とし、英文は6,000語以内とする（同上）。書評並びに研究室だよりは2ページ、邦文は4,000字以内とし、英文は2,000語以内とする。
- 原稿は横書きとし、ワープロ等で印字されたものとする。
- 挿入原稿は、直接印刷できるようなものとする。図表には、それぞれ必ず通し番号とタイトルをつける。図表の挿入箇所は、本文原稿に指示する。
- 原稿提出の際、1ページ目に題名、英文題名、著者名、所属を記入し、2ページ目に300語以内の英文要旨（本文が英文の場合は600字以内の邦文要旨）、要旨の下にkey wordsを5つ以内列挙し、3ページ目から本文を記載する。

英文については、本文、英文要旨とも投稿前に英文校閲を必ず受けること。
- 原稿はA4版横書き、ページの構成は、邦文は23字×43行×2段組み、英文は43行×2段組みとし、ワープロ等で印刷されたものとする。フォントサイズは、邦文の論文・英文の論文ともに10ポイントとする。
- 博士論文要旨は、刷り上がり2ページとする。修士論文要旨は、刷り上がり1ページとする。シンポジウム要旨等は、刷り上がり1ページとする。
- 引用番号は引用順とし、文献番号を本文の右肩につける。雑誌は、著者氏名：論文題目、雑誌名巻：最初ページ最終ページ（通巻ページ）、発行年（西暦）の順に書く。単行本は、著者氏名：書名、巻数、版数、発行者、発行地、発行年、引用頁を記載する。文献名の省略は原則として関連領域のそれに従う。編著よりの引用は著者名のほか編者名を記す。引用・参考文献、本文中の見出しについては別に定める引用書式細則に従うものとする。
- 校正は、著者が一校まで行うものとする。校正時には原則として訂正を認めない。
- 別刷りは50部まで無料とし、それ以上は本人負担とする。
- 特別寄稿文（定年等の退職教員のプロフィールを含む）、博士学位論文・修士論文要旨、人総研シンポジウム抄録等は補遺（Supplement）に掲載する。
- 本誌に掲載された著作権は原則として著者本人に帰属する。また、編集委員会は本誌掲載原稿の第一次刊行権を有し、本誌版下は編集委員会に帰属する。著者による本誌掲載形態での再録・公開は禁止する。著者は本誌掲載原稿の単行本への再録およびWeb上での公開ができる。再録・公開の際には、本誌掲載原稿である旨を明記する。
- 18条の規定に拘わらず、著者は、著作権のうち、以下の各号について、その行使を、あらかじめ許諾によって、編集委員会に委ねるものとする。
  - (1) 掲載論文等を国立情報学研究所の「研究紀要ポータルシステム」に登録および公開する権利
  - (2) 掲載論文等を「早稲田大学リポジトリ」に登録および公開する権利
- 19条の規定に拘わらず、著者は、自らの著作物である掲載論文等について、編集委員会が前条(1)、(2)の権利を行使することに対し許諾を与えないことができる。その場合、著者は、当該論文等が掲載される本誌の刊行以前に、その旨を文書により、編集委員会に申し出るものとする。

附則 本規定は、2004年11月17日から施行する。

附則 本規定は、2010年1月27日から施行する。

附則 本規定は、2011年10月1日から施行する。

附則 本規定は、2012年1月1日から施行する。

附則 本規定は、2012年12月19日から施行する。

附則 本規定は、2015年12月16日から施行する。

附則 本規定は、2019年1月23日から施行する。

附則 本規定は、2019年11月13日から施行する。

附則 本規定は、2020年9月16日から施行する。

## 編集後記

人間科学研究の第34巻補遺号をお届けします。今回は、2020年度に人間科学部通信課程を卒業された羽生結弦さんに、ご自身の卒業研究論文に基づいた特別寄稿をしていただきました。世界的なトッププレーヤーとして、フィギュアスケートにおける審査の正確さ向上、ならびに選手が自身の技術向上のためにモーションキャプチャを使う可能性について論じています。現時点で何ができて、何が難しいのかについて整理されていますが、こうした実践と学問を結ぶ試みは、実践科学を目指す人間科学を発展させる機動力になると信じています。

2021年3月吉日

(学術誌編集委員会委員長 古山 宣洋)

## 表紙について

縦書きと横書きを組み合わせた題字は、異分野・異文化が「学」を要として結びつき展開する人間科学を象徴している。また、中央部に配置されたランダムドットからなる2つの正方形は、それぞれを両眼で観察すると一つの立体が浮かび上がるステレオグラムになっており、人間科学における学の融合と新しい価値の創造を表す。ここで立体視されるのは、本誌の前身であり、1988年から2004年まで発行された人間総合研究センター機関誌『ヒューマンサイエンス』表紙を飾る、「踊る人」のモチーフである。『ヒューマンサイエンス』に記載された説明によれば、「踊る人」は躍動する人間そのものであると同時に「人間によって記録された人間」であり、言わば「観察」と「記録」という人間による科学的営みそのものを自己言及的に表現していると読み取ることができる。この「踊る人」を、人間科学学術院のスクールカラーであるエメラルドグリーンを使用して裏表紙いっぱいに描き、「踊る人」に重なるコンテンツ——各論考——の飛躍の願いを込めた。

(三嶋 博之)

## 人間科学研究 補遺号 2021年

---

発行日 2021年3月18日  
発行人 三嶋 博之  
発行所 早稲田大学人間科学学術院  
埼玉県所沢市三ヶ島2-579-15  
〒359-1192 電話 04-2947-6849  
印刷所 社会福祉法人東京コロニー  
コロニー東村山印刷所  
東京都東村山市秋津町2-22-9  
〒189-0001 電話 042-394-1113

---



www.waseda.jp/fhum

**Senior Dean:** Hiroyuki MISHIMA  
**Chief Editor:** Nobuhiro FURUYAMA  
**Editorial Board:** Naoto HIGUCHI, Qun JIN,  
 Masaki KAKEYAMA, Norihiko KAWATE, Shutaro KOYAMA,  
 Akito MIURA, Mikimasa OMORI, Ryuju SATOMI,  
 Eriko SUGIMORI, Masayuki YOKOSAWA



Waseda University  
Faculty of Human Sciences

## CONTENTS

## 目次

### Special Contribution

Yuzuru Hanyu  
 "A Feasibility Study on Utilization in Figure Skating by A Wireless Inertia  
 Sensor Motion Capture System" ..... 1

羽生結弦  
 「無線・慣性センサー式モーションキャプチャシステムの  
 フィギュアスケートでの利活用に関するフィジビリティスタディ」 ..... 1

### Profile of retired professor

Professor Koichi Negayama ..... 9

根ヶ山 光一 教授 ..... 9

### Abstract of Doctor Theses

19 papers ..... 11

19 papers ..... 11

### Abstract of Master Theses

78 papers ..... 49

78 papers ..... 49

### Report of the symposium

Tadashi Asada ..... 127  
 Hiroko Kase ..... 133

浅田 匡 ..... 127  
 加瀬裕子 ..... 133

### 特別寄稿

### 退職教員プロフィール

### 博士論文要旨

### 修士論文要旨

### 人総研シンポジウム抄録

© Faculty of Human Sciences, Waseda University